第２章　保育の内容

１　乳幼児期の発達の特性……４７

２　発達過程……４８

３　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿……５５

４　子どもの発達過程における保育の視点……５９

（１）乳児保育に関わる内容
（２）１歳以上児の保育に関わる内容

５　保育の実施に関して留意すべき事項……６７

（１）保育全般に関わる配慮事項
（２）小学校との連携
（３）家庭及び地域社会との連携

６　保育所児童保育要録について……６８

（１）「保育所児童保育要録」の送付にあたって
（２）保育所児童保育要録に記載する事項……６９
　　○保育所児童保育要録（様式及び記載例）

第2章　　保育の内容

子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達及び生活の連続性に配慮して保育を実施する。
実際の保育においては、養護と教育が一体となって展開されることに留意する必要がある。
○子どもの発達は、環境との相互作用を通して、豊かな心情、意欲、態度を身に付け、新たな能力を獲得していく過程である。
○特に人との総合的な関わりを深める中で、人への信頼感と自己の主体性を形成していく。

1　乳幼児期の発達の特性

○人への信頼感が育つ

・大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより情緒が安定し、人への信頼感が育つ。
・身近な環境に興味や関心を持ち、自発的に働きかけるなど、自我が芽生える。

○環境への関わり

・環境に主体的に関わることにより、心身の発達が促される。

○子ども同士の関わり

・大人との信頼関係を基に子ども同士の関係を持つ。
・子ども相互の関わりを通じて身体的な発達、知的な発達とともに、情緒的、社会的及び道徳的な発達が促される。

○発達の個人差

・生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いにより、心身の発達の個人差が大きい。

○遊びを通して育つ

・遊びを通して、仲間との関係を育み、その中で個の成長も促される。

○生きる力の基礎を培う

・生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねることにより、豊かな感性、好奇心、探究心、思考力が養われる。また、それらがその後の生活や学びの基礎になる。

２　発達過程

保育士等は、子どもの心情に寄り添い、共感したり、励ましたりしながら子どもが環境との関わりのなかで、様々な能力を獲得していく過程を見守り、子どもに安心感を与えながら発達過程に沿った保育を実践していく。

おおむね６か月未満
【著しい発達】 ・生後４か月頃には首がすわり、手足の動きが活発になり、その後寝返り、腹ばい等全身の動きが活発になる。 ・視覚、聴覚などの感覚の発達がめざましい。 **【特定の大人との情緒的な絆】** ・表情や体の動き、泣き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる大人との間に情緒的な絆が形成されるとともに、人に対する基本的信頼感を育んでいく。 ・特定の大人が、応答的、かつ積極的に働きかけることで、その大人との間に情緒的な絆が形成され、愛着関係へと発展していく。

おおむね６か月未満から１歳
【運動発達】 ・座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達する。 **【愛着と人見知り】** ・6か月頃には身近な人の顔が分かり、あやしてもらうと喜ぶなど、愛情をこめて受容的に関わる大人とのやり取りを楽しむ中で愛着関係が強まる。その一方で、人見知りをするようにもなるが、これは特定の大人との愛着関係が育まれている証拠である。 **【言葉の芽生え】** ・9か月頃になると、身近な大人に自分の意思や欲求を指差しや身振りで伝えようとするなど、コミュニケーションの芽生えが見られるようになる。 ・大人との応答的な関わりの中で、自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 **【離乳の開始】** ・この時期は離乳が開始され、咀嚼や嚥下をくり返しながら、徐々に形や固さのある食べ物を摂取するようになる。

おおむね１歳から１歳６か月
【運動発達】 ・つかまり立ち、伝い歩きをし、歩き始めるようになる。 ・手を使うようになり、つまむ、めくるなどの運動機能が発達する。 【活発な探索活動】 ・歩き始めに伴い外への関心が高まり、探索活動が活発になってくる。 ・全身と手を動かす中で、身近な物に興味や関心を持って関わり、更に体を動かして探索意欲を高めていく。 【言葉の芽生え】 ・大人の言うことが少しずつわかる様になり、片言や指差し、身振りで示そうとする。 ・喃語も会話らしい抑揚がつくようになる。 【離乳食から幼児食へ】 ・楽しい雰囲気の中で喜んで食事をし、様々な食品に慣れ親しみながら次第に幼児食へと移行していく。 ・自分の手で食べたいという意欲が芽生え、食べ物に手を伸ばして食べるようになる。
おおむね１歳６か月から２歳
【運動発達】 ・つかまらずに歩けるようになり、押したり、投げたりなどの運動機能も増す。 ・通す、はずす、なぐりがきをする、転がす、スプーンを使う、コップを持つなどの運動の種類が確実に豊かになっていく。 【行動範囲の拡大】 ・歩行の獲得により、自分の意思で自分の身体を動かすことができるようになる。子どもは、「自分でしたい」という欲求を生活のあらゆる場面において発揮していく。 ・探索活動に心そそられ、身近な人や身の回りにあるものに自発的に働きかけていく。 【象徴機能と言葉の習得】 ・語彙の理解が進み、自分の思いを親しい大人に伝えたいという欲求が高まり、一語文や二語文を話し始める。 ・目の前にはない場面や事物を頭の中でイメージして、遊具などで見立てるという象徴機能が発達してくる。

【周囲の人への興味・関心】

・友だちや周囲の人への興味や関心が高まり、他の子どものしぐさや行動を真似たり、同じ玩具をほしがったりする。

・玩具を取り合ったり、相手を拒否したり、簡単な言葉で不満を訴えたりしながら、大人との関わりとは異なる子ども同士の関わりが育まれていく。

おおむね２歳

【基本的な運動機能】

・走る、跳ぶなどの基本的な運動機能が伸び、自分の思うように体を動かすことができるようになる。

・身体運動のコントロールもうまくなるので、リズミカルな運動や音楽に合わせて体を動かすことを好むようになる。

・指先の動きも急速に進化する。

【言葉を使うことの喜び】

・発声はより明確になり、語彙も増加し、自分のしたいこと、してほしいことを言葉で表出できるようになる。

・他の子どもとの関わりを少しずつ求めるようになる。

・自分が得た喜びや感動や発見を、共感してくれる人に一心に伝えようとし、一緒に体験したいと望むようになる。

【自己主張】

・何でも意欲的にやろうとするが、すべてが思い通りに受け入れられず、また、自分でできるわけでもないので欲求が妨げられる経験をする。それをうまく対処する力を持っていないので、かんしゃくを起こしたり、反抗したりして自己主張する。大人が自我の育ちを積極的に受け止めることにより、自分自身が好ましく思え、自信を持つことができるようになる。

おおむね３歳

【運動機能の高まり】

・基礎的な運動能力が育ち、歩く、走る、跳ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶらさがる、またぐ、蹴るなどの基本的な動作が出来るようになる。

【基本的生活習慣の形成】

・基本的な生活習慣がある程度自立できるようになる。
・基本的な生活習慣がある程度自立するようになることで「何でも自分でできる」という意識が育ち、大人の手助けを拒むことが多くなる。

【言葉の発達】

・理解する語彙数が急激に増加し、日常生活での言葉のやり取りができるようになる。
・人と関わる挨拶の言葉を使うようになり、言葉を交わす心地よさを体験していく。
・話し言葉の基礎ができ、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。

【友だちとの関わり】

・他の子どもの遊びを模倣したり、遊具を仲立ちとして子ども同士で関わったりするが平行遊びも多い。
・遊具の取り合いからけんかになることもあるが、徐々に友だちと分け合ったり、順番に使ったりするなど決まりを守ることを覚え始める。

【ごっこ遊びと社会性の発達】

・自我が成長するようになり自分についての認識と同時に、家族、友だち、保育者などとの関係が分かり始め、友だちとの関わりが多くなる。
・大人の行動や日常生活において、経験したことをごっこ遊びに取り入れるなど、象徴機能や観察力を発揮して遊びに発展性がみられるようになる。
・予想や意図、期待を持って行動できるようになる。

おおむね４歳
【全身のバランス】 ・しっかりとした足取りで歩くようになるとともに、片足跳びや、スキップなど、身体の動きが巧みになる。 ・手先が器用になり、紐を通したり結んだり、ハサミを扱えるようになる。 ・遊びながら声を掛けるなど、異なる二つの行動を同時に行えるようになる。 【身近な環境への関わり】 ・自然など身近な環境に積極的に関わり、様々な物の特性を知り、それらとの関わり方や遊び方を体得していく。 【想像力の広がり】 ・現実に体験したことと、絵本など想像の世界で見聞きしたこととを重ね合わせたり、イメージを膨らませ、物語を自分なりに作ったりしながら遊びを発展させていく。 ・大きな音や暗がり、お化けや夢、一人取り残されることへの不安など恐れの気持ちを経験する。 ・心が人だけでなく他の生き物や無生物にもあると信じる。 【葛藤の経験】 ・自分と他人との区別がはっきりとわかると同時に、見られる自分に気づくといった自意識をもつようになる。 ・自分の気持ちを通そうとする思いと、時には自分の思ったとおりにいかないという不安や、辛さといった葛藤を経験する。 【自己主張と他者の受容】 ・仲間とのつながりが強くなる中で、けんかも増えてくる。その一方で、決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・感情が豊かになり、身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑えて我慢ができるようになってくる。

おおむね５歳
【基本的生活習慣の確立】 ・一日の生活の流れを見通しながら次にとるべき行動が分かり、手洗い、食事、排泄、着替えなどを進んで行うなど基本的な生活習慣が身に付く。 ・共有物を大切にし、片付けをするなど、自分で生活の場を整え、その必要性を理解する。 ・自分のことだけでなく、人の役に立つことが嬉しく誇らしく感じられ、進んで大人の手伝いや年下の子どもの世話をする。 【運動能力の高まり】 ・縄跳びやボール遊びなど、身体全体を協応させた複雑な運動をするようになる。自ら挑戦する姿が見られるなど喜んで運動遊びをし、仲間と共に活発に遊ぶ。 ・手先の器用さが増し、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作もできるようになる。大人の援助により、様々な用具を扱えるようになる。 【目的のある集団行動】 ・物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識するようになる。 ・言葉によって共通のイメージをもって遊び、目的に向かって集団で行動することが増える。さらに、遊びを発展させるために、自分たちで決まりを作ったりする。 【思考力の芽生え】 ・自分なりに考えて判断したり、批判する力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。 【仲間の中の人としての自覚】 ・他人の役に立つことをうれしく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。

おおむね６歳
【巧みな全身運動】 ・全力で走り、跳躍するなど全身運動が滑らかで巧みになる。 ・細かな手の動きが一段と進み、自分のイメージしたように描き、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をするなど、様々な方法で様々な材料や用具を用いて工夫して表現する。 【自主と協調の態度】 ・これまでの体験から予想や見通しを立てる力が育ち、意欲が旺盛になる。 ・役割分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。 ・様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。 【思考力と自立心の高まり】 ・思考力や認識力が高まり、文字や社会事象、自然事象などへの興味や関心が深まる。 ・自意識が高まるとともに、自分とは異なる身近な人の存在やそれぞれの人の特性や持ち味などに気づいていく。 ・身近な大人に甘えたりすることもあるが、様々な経験を通して自立心が一層高まっていく。

３　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

・５領域のねらい及び内容に基づく生活や遊びを積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿である。
・保育士等は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、指導を行う際に考慮することが求められる。
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものでないことに十分留意する必要がある。
・小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共有化されることにより、小学校教育との接続の強化が図られる。

項目	内容(具体例)	生活・遊び（具体例）
健康な心と体　(健康) 保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	・生活に必要な習慣を自ら行い、そのわけを理解して行動する。 ・気温や遊びに応じて衣服を着脱したり体調の変化等を伝えたりする。 ・身体を使った遊びで、上手く出来ない事もあるが遊びを継続する中で自分なりに目標を決めて取り組む。 ・自分の身体の動きをコントロールしようとする等、安全な遊びが身に付いていく。 ・園での給食が楽しい時間であることや成長するために大切な食事であることを理解して、苦手なものも食べたりまわりに伝えたりする。	・食育活動 ・運動遊び ・ごっこ遊び ・わらべうた ・リズム遊び ・伝承遊び ・散歩 ・プール遊び ・なわとび
自立心(人間関係) 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。	・遊びを繰り返したり、工夫したり、出来ないところは友だちや保育士等の手を借りて完成しようとする。 ・一日の園生活の流れが分かり、身の回りの始末や整理が自らできるようになっていく。 ・園の生活や遊びの準備など、年長児の役割を担うことで責任感、達成感、肯定感を味わう。 ・目標に向かって友だちと協力して諦めずにやり遂げようとする。 ・甘えたり依存したりすることもあるが、行きつ戻りつしながら自分の力でやり遂げようとする。	・当番活動 ・行事に向けての活動 ・椅子や机を並べる ・布団敷き ・ごっこ遊び ・なわとび ・プール遊び ・コマ回し

項　目	内容(具体例)	生活・遊び（具体例）
協同性(人間関係) 友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	・ごっこ遊びや劇遊び等で誘い合ったり、役割を分担したり、遊びで必要な用具を作ったりする。 ・遊びやトラブル等で自分の思いを伝え、自分とは違う意見や考えに気付く。 ・保育者の仲立ちがなくとも、自分たちでトラブルを解決しようとする。 ・リーダー的な役割を担い、役割分担をしながら１つの遊びを継続していく。	・ごっご遊び ・集団遊び ・鬼ごっこ ・どろんこ遊び ・当番活動
道徳性・規範意識の芽生え **（人間関係）** 友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。	・遊びの中で、友だちと力を合わせ、ルールを守ったり話し合いながら新たなルールを作ったりする。 ・園の玩具や遊具等を丁寧に使う。 ・友だちの思いを理解したり、自分で考えたりしながら良いことや悪いことに気付いて伝えようとする。時には不本意で、納得できないことでも、友だちに促されて自分の気持ちを調整して、我慢しようとする。 ・年少児に約束事を教えることで、自ら守ろうとする。 ・友だちとの遊びの中できまりのある生活の大切さに気付いていく。	・集団遊び ・物の扱い方 ・ごっこ遊び ・かくれんぼ ・フルーツバスケット ・じゃんけん ・トランプ
社会生活との関わり **（人間関係・環境）** 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。	・地域の高齢者や小中学生等と日常的な交流や行事を通して、挨拶をしたり話したりする。 ・体育館や図書館等身近な公共施設を利用したり訪問したりする。 ・様々な人に親しみをもって関わり思いを受け止めて、自分達が役に立っていることに喜びを感じる。 ・伝統的な行事や地域の行事に親しみ参加したり遊びに取り入れる。 ・社会の中で様々な仕事があることを理解して、大きくなったらなりたい職業を言葉にする。	・高齢者施設訪問 ・公共施設利用 ・園外保育 ・ふれあい遊び ・布団敷き ・当番活動

項　目	内容(具体例)	生活・遊び（具体例）
思考力の芽生え(環境) 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。	・遊びや生活の中で、様々なものに興味や関心をもち、工夫して遊ぶ。 ・遊びの様々な場面で分からないことや不思議に思うこと等を聞いたり、図鑑や絵本等で調べたりする。	・ジェスチャー ・なぞなぞ ・工作 ・ごっこ遊び ・お絵かき ・粘土 ・折り紙 ・絵本 ・積み木 ・空き箱製作
自然との関わり・生命尊重(環境) 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。	・季節により変化する気象や身近な自然に興味や関心をもつ。 ・野菜や花等の栽培や収穫を経験して、生長や生命の大切さ、不思議さに気付く。収穫した野菜の大きさ、重さ、数、長さなど並べたり、持ったり、数えたりして理解する。自分でも調べてみようとする意欲が見られる。 ・身近な動植物に親しみ、いたわったり、世話をしたりして大切にする。 ・園の年少児、乳児との積極的な関わり、お世話等から他者への思いが育まれる。	・栽培 ・飼育 ・虫探し ・動物との触れ合い ・どろんこ遊び ・雪あそび
数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚　(環境) 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要性に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。	・カルタ、パズル、トランプ等のカード遊びを楽しむ中で言葉や文字、数や図形等に関心をもつ。 ・当番活動で出席の人数を数えたり、材料等を配布したりする中で数に関心をもつ。 ・園内外のポスター、表示、標識、広告など目にしたものに興味をもち、遊びに取り入れる。 ・玩具、用具、教材を組み合わせたり、数えたり、比べたりする。 ・行事や楽しみにしていることなど、あと何日と数えたりして、理解する。 ・給食やおやつ等、食べられる量を伝える。	・郵便ごっこ ・すごろく ・かるた ・トランプ ・積み木 ・パズル ・ブロック ・ぬりえ ・折り紙 ・手遊び ・じゃんけん

項　目	内容(具体例)	生活・遊び (具体例)
言葉による伝え合い (言葉) 保育士等や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	・身近な事物や事象、共通の話題について、話したり、友だちの話を聞いたりする。 ・簡単な連絡や経験したことを身近な人に伝える。 ・絵本や物語などに親しみ、内容に興味をもって想像して楽しむ。 ・遊びの中で自己主張やぶつかり合い、葛藤もあるが、自分と違う意見も受け入れようとする。 ・年少児の言葉が足りず、トラブルになっている場面で補足し、思いに合うように伝えたりする。	・しりとり ・伝言ゲーム ・ままごと ・劇遊び ・ごっこ遊び ・言葉遊び ・絵本 ・かくれんぼ ・わらべうた ・手遊び
豊かな感性と表現 (表現) 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。	・劇遊び等遊びの中で自分の役割を演じたり、身体表現をしたりする。また、遊びに必要な物を工夫して作る。 ・身近な材料を使って経験したことやイメージしたものを作ったり描いたりする。 ・友だちと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして音色やリズムを楽しむ。 ・絵本、お話等に親しむ。また、自分でお話を考えて、イメージを広げて楽しむ。 ・経験したこと、自分の思っていることを皆の前で発表し、友だちの発表を聞くことができる。	・歌 ・造形活動 ・劇遊び ・お絵かき ・楽器遊び ・手遊び ・遊戯

４　子どもの発達過程における保育の視点

（１）乳児保育に関わる内容

発達過程のもっとも初期に当たる乳児期には、養護と教育の一体性をより強く意識して保育が行われることが求められるが、乳児期には特に養護の側面が重要である。

①　養護の重要性

ア　乳児期は、主体として受け止められ、その欲求が受容される経験を積み重ねることによって育まれる特定の大人との信頼関係を基盤に世界を広げていく時期であり、愛情に満ちた応答的な関わりが大切である。

イ　乳児期は、心身の様々な機能が未熟であると同時に、発達が未分化な状態である。そのため安全が保障され，案心して過ごせるよう十分に配慮された環境の下で、乳児自らの力を発揮し生活や遊びの充実が図られる必要がある。

②　保護者との信頼関係

ア　各家庭の実態等を踏まえながら日々の連絡帳や会話から保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を築いていく。

イ　保護者一人一人の育児の不安や悩みを共有し、自らが子育てできるように保護者の気持ちを尊重する。

ウ　保護者と保育士等が子どもの成長や発達に気づき、子育ての喜びを共有する。

■子どもの発達過程における保育の視点〈乳児〉

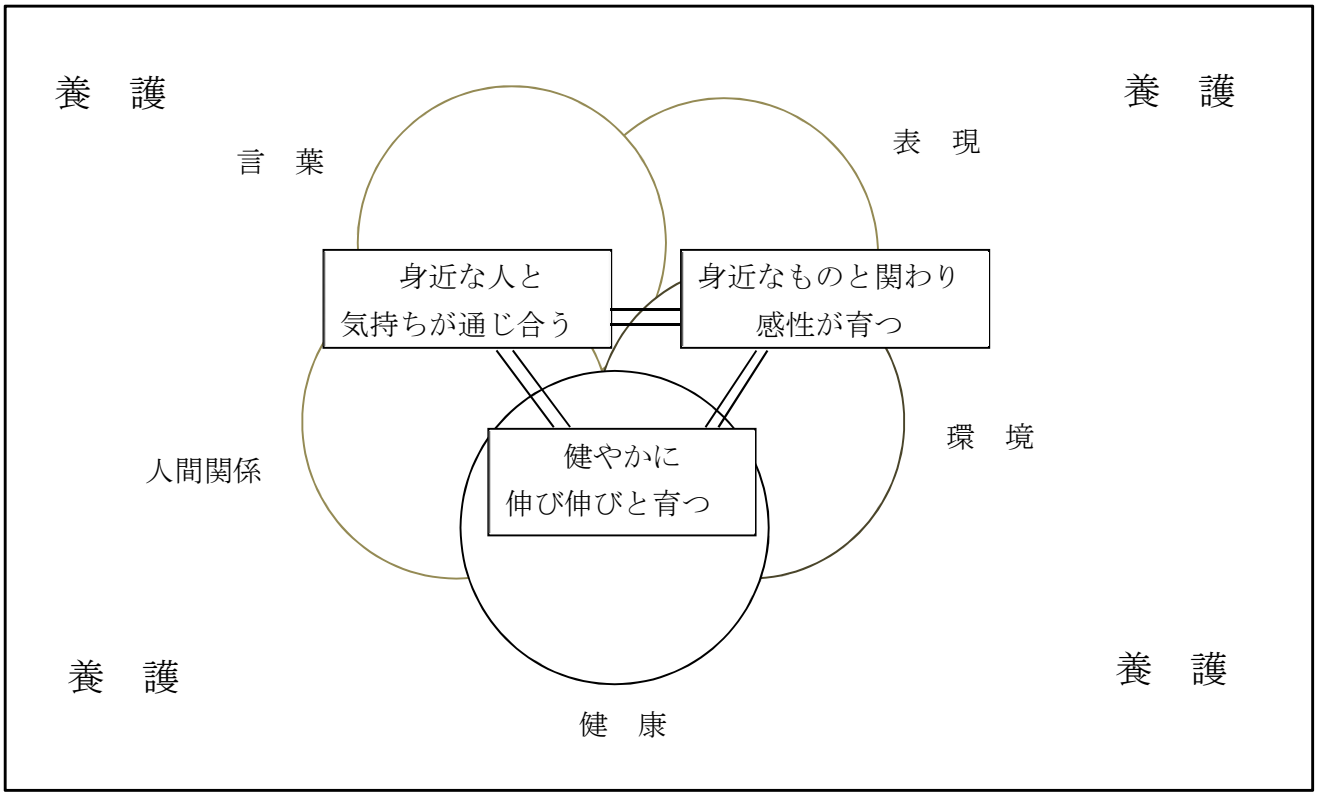
健やかに伸び伸びと育つ　〈身体的な発達に関する視点〉			
ね　ら　い	（心情） 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。	（意欲） 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。	（態度） 食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。
1　おおむね 6か月未満	・一人一人に合った生活リズムの中で心身ともに快適に過ごす。	・手足の動きや全身の動きが活発になり、自分の意思で体を動かそうとする。	・特定の保育士等との関わりで授乳、排泄、睡眠のリズムが整っていく。
2　おおむね 6か月から 1歳未満	・一人一人の生活リズムが守られながら座る、はう、歩くなど体を動かすことができる喜びを味わう。	・姿勢を変えたり、移動したりしながら全身を動かし、両手を自由に使って探索活動を楽しむ。	・保育士等との信頼関係の中で、食事、排泄、睡眠などの生活習慣の基礎を身に付けていく。

身近な人と気持ちが通じ合う　〈社会的発達に関する視点〉			
ね　ら　い	（心情） 安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。	（意欲） 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。	（態度） 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。
1　おおむね 6か月未満	・特定の保育士等との受容的・応答的な関わりを喜ぶ。	・特定の保育士等に受け止めてもらったり応答してもらったりすることで信頼感が芽生える。	・特定の保育士等に応答的に関わってもらうことで情緒的な絆が形成されるとともに、基本的信頼関係が育まれていく。
2　おおむね 6か月から 1歳未満	・保育士等との応答的な関わりを通し、身近な人とともに過ごすことを喜ぶ。	・保育士等に優しく受け止めてもらい、喜んで声を出したり、指差しや身振りなどでやり取りを楽しむ。	・人見知りをする一方で特定の大人との愛着関係が育まれ、情緒的な絆が深まる。

身近なものと関わり感性が育つ　〈精神的発達に関わる視点〉			
ね　ら　い	（心情） 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。	（意欲） 見る、触れる、探索するなど身近な環境に自分から関わろうとする。	（態度） 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。
1　おおむね 6 か月未満	・安心できる環境の下で、身の回りの玩具等を見たり聞いたり触ったりして、自分をとりまく環境を認知しはじめる。	・安心できる環境の下で、周囲の人や物をじっと見つめたり、話し声のする方を見たり、動くものを目で追うようになる。	・安心できる環境の下で、聞く、見る、触るなどの感覚の働きや表情が豊かになる。
2　おおむね 6 か月から 1 歳未満	・視野が広がり、自然に触れたり、身の回りのものに働きかけたりすることを喜ぶ。	・周囲の人や物に興味を示し、自分から近づいて関わろうとする。	・様々なものを聞いたり見たり触ったりすることで興味や好奇心が芽生え、感覚や手や指の機能が豊かになる。

※子どもの発達には月齢や個人による差があることから“おおむね”としためやすで一人一人の発達を見て援助していく。

乳児保育のイメージ図



（２）１歳以上児の保育に関わる内容

健　康

ね　ら　い	（心情） 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。	（意欲） 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。	（態度） 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。
1　おおむね 1歳から 1歳6か月未満	・身近な保育士等と愛着を基盤として、少しずつ自分の世界を広げていく。	・保育士等との愛着関係を基に、身近な人や身の回りのものに自ら働きかける。	・保育士等との愛着関係の中で、食事、排泄、睡眠などの生活習慣を積み重ねる。
2　おおむね 1歳6か月から 2歳未満	・自分の意思で自分の体を動かすことができるようになり、身近な人や身の回りのものに働きかけていく。	・行動範囲が広がり、見たり触れたりして、自分でやってみようとする。	・食事、排泄、睡眠、着脱などを手伝ってもらいながら、自分でしようとする。
3　おおむね 2 歳	・基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分の体を思うように動かすことができる。	・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動や指先を使う遊びを繰り返し楽しむ。	・食事、排泄、衣服の着脱など、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
ね　ら　い	（心情） 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	（意欲） 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	（態度） 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
4　おおむね 3 歳	・体を動かして遊ぶことを喜び、平行遊び、模倣やごっこ遊びを楽しむ。	・戸外遊びなど様々な遊びの中で十分に体を動かし、大人の手助けを借りず、自分の意思で行動しようとする。	・基本的な生活習慣がある程度自立できる。 ・遊びの中で、友だちや保育士との間の簡単な約束ごとを守り、行動しようとする。
5　おおむね 4 歳	・体のバランス能力が発達し、身近な遊具や用具を使い、友だちとのつながりを広げ様々な遊びを楽しむ。	・全身を使いながら様々な遊具や遊びなどに挑戦して積極的に遊ぶ。	・自分でできることに喜びを感じながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を次第に身につける。
6　おおむね 5 歳	・共通の目的やルールのある集団遊びを楽しみ、友だちとのつながりを深める。	・体全体を協応させた複雑な運動機能が高まり、仲間と共に活発に遊ぶ。	・基本的な生活習慣が身につき、1 日の生活の流れを見通し、健康、安全に必要なきまりがわかる。
7　おおむね 6 歳	・仲間の意思を大切にしようとし、協同遊びや、ごっこ遊びを通し、充実感や満足感を味わう。	・全身がなめらかになり、様々な運動遊びを友だちと一緒に工夫したり発展させたり、目標に向って意欲的に挑戦する。	・健康や安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、そのわけを理解しながら、自主的に行おうとする。

人　間　関　係

ね　ら　い	（心情） 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。	（意欲） 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。	（態度） 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。
1　おおむね 1歳から 1歳6か月未満	・身近な保育士等との愛着を基盤として、少しずつ自分の世界を広げていく。	・信頼する保育士等との愛着関係を基盤として、身近な人や身の回りのものに自発的に働きかける。	・保育士等の仲立ちにより、友だちと関わる。
2　おおむね 1歳6か月から 2歳未満	・保育士等の愛着関係の中で、友だちや身近な人と関わることを楽しむ。	・生活や遊びの中で、他の子どもの存在に気づき、徐々に関わろうとする。	・保育士等の仲立ちにより、相手にも思いがあることに気付く。
3　おおむね 2歳	・保育士等の愛着関係の中で自分の気持を安心して表わしたり、自我の育ちを受け止めてもらったりする。	・自己主張をしながらも、保育士等を仲立ちとして、他の子どもと関わったり生活したりする。	・保育士等に受容されながら、生活や遊びのなかにきまりがあることに気付く。
ね　ら　い	（心情） 保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	（意欲） 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。	（態度） 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
4　おおむね 3歳	・友だちとの関わりが多くなり、様々な経験を繰り返しながら遊ぶ楽しさを味わう。	・平行して遊びながら、模倣やけんか等を通して徐々に関わりを深め、遊びを楽しもうとする。	・友だちとの関わりの中で、時には保育士が仲立ちとなり、簡単な決まりを守ることを覚えはじめる。
5　おおむね 4歳	・子ども同士の遊びが豊かになる中で、がまんや葛藤を経験するが、仲間とのつながりも深まり喜びや楽しさを感じる。	・友だちとのつながりを広げ、協調したり集団で活動することを楽しむ。	・回りの大人に共感、励まされることによって身近な人の気持ちがわかり、約束ごとやルールの大切さに気付き守ろうとする。
6　おおむね 5歳	・仲間の存在を感じながら、同じ一つの目的に向って活動することを楽しむ。	・自ら考え行動したり、人の気持ちを理解しながら遊びを発展させ、友だちへの親しみや信頼感を高めていく。	・自分達できまりを作ったり、お互いに相手を許したり認めたりという社会生活に必要な基本的な力を身につけていく。
7　おおむね 6歳	・友だちとの関わりの中で、遊びの楽しさを共有したり協調したり、意見を調整しながら関わりを深め、楽しむ。	・身近な人との関わりの中で信頼感や愛情をもって生活し、相手の立場を理解し、進んで集団活動を楽しむ。	・様々な関わりの中で、自主と協調の姿勢や態度など、生活の基礎となるものを身につける。

環　境

ね　ら　い	（心情） **身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。**	（意欲） **様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。**	（態度） **見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。**
1　おおむね 1歳から 1歳6か月未満	・慣れ親しみ安心できる環境の中で、注意をひかれたものへ自ら近づいていき、見たり触れたりする。	・探索活動を広げながら、反応を楽しんだり、発見する経験を繰り返す。	・保育士等を安全基地にして、見る、聞く、触れる、かぐ、味わう等、自分なりの方法で親しむ。
2　おおむね 1歳6か月から 2歳未満	・身の回りのものに触れる経験を重ねながら、様々なものに親しむ。	・様々な素材に自ら触れ、好奇心を持って繰り返し遊ぶ。	・ものや場所に愛着や親しみの気持ちを持って、安心して遊ぶ。
3　おおむね 2 歳	・身の回りのものや親しみの持てる自然物を、見たり触れたりして楽しむ。	・身の回りの事物や自然物に触れ、興味や好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。	・ものや場所に愛着や親しみを持ち、自分なりの遊びの世界を広げる。
ね　ら　い	（心情） **身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。**	（意欲） **身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。**	（態度） **身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。**
4　おおむね 3 歳	・身近な動植物や自然事象に親しみ、見たり触れたりして遊ぶことを楽しむ。	・様々な事象に親しみ、身近な生活を模倣したりしながら、ごっこ遊びを楽しむ。	・生活や遊びの中で、身の回りの物の色、数、量、形などに興味をもち、違いに気付く。
5　おおむね 4 歳	・感覚を総動員して、見たり触れたりしながら、身近な自然環境に興味をもち、関わりが豊かになる。	・自然など身近な環境に積極的に関わり、興味を示し、様々なものの特性を知り関わり方や遊び方を体験していく。	・生活や遊びの中で具体的なものを通して、色、数、量、形などに関心をもち、それらを取り入れて遊ぶ。
6　おおむね 5 歳	・身近な社会や自然事象への関心が高まり、質問したり自分で調べたりして様々なもののおもしろさ、不思議さ、美しさなどに感動する。	・身近な環境と触れ合う中で、友だちや保育士等と共感しながら、興味や関心を広げ、それらを取り入れて遊ぼうとする。	・生活や遊びを通して様々なものを見たり、大切に扱ったり、それらについて考えたりする中で、物の性質や存在に興味や関心をもつ。
7　おおむね 6 歳	・身近な社会事象や自然事象への関心が深まり、美しさ、優しさ、尊さなどに対する感性を豊かにする。	・身近な社会や自然環境に自ら関わり、その働きや仕組み、性質に興味や関心を持ち、考えたり試したり工夫したりして使おうとする。	・様々な経験を通して思考力と認識力が高まり、自然事象や社会事象、文字や数への興味や関心が深まる。

言　葉

ね　ら　い	（心情） 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。	（意欲） 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。	（態度） 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。
1　おおむね 1歳から 1歳6か月未満	・保育士等との応答的な関わりにより、言葉の持つ響きやリズムの面白さや美しさを感じる。	・保育士等との応答的な関わりを通し、片言や指差し、身振りなどで、自分の気持ちを表そうとする。	・保育士等との愛着関係の中で、片言や指差し、身振りを受け止めてもらい、心が通じ合う。
2　おおむね 1歳6か月から 2歳未満	・身近な対象と言葉との対応に気付き、言葉を交わすことの楽しさを感じ取る。	・生活場面で繰り返し耳にする言葉を理解し、応じたり使ってみようとする。	・絵本等の言葉のリズムを繰り返し楽しんだり、生活に必要な言葉に親しむ。
3　おおむね 2歳	・保育士等と話をしたり、自分の欲求を表したりすることを喜ぶ。	・保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	・生活や遊びに必要な簡単な言葉を聞き分け、模倣やごっこ遊びを楽しむ。
ね　ら　い	（心情） 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	（意欲） 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	（態度） 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友だちと心を通わせる。
4　おおむね 3歳	・生活や遊びの中で言葉のやりとりが不自由なくできるようになり、言葉をかわす心地よさを味わう。	・友だちの話を聞いたり保育士等に質問したりするなど、知的興味や関心が高まる。	・保育士や友だちと言葉で伝え合ったり、絵本、物語、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてその内容や面白さを楽しむ。
5　おおむね 4歳	・自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。	・保育士や友だちとやりとりを重ねる中で、様々な言葉に興味をもつ。	・日常生活に必要な簡単な言葉を理解したり、絵本、物語、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを広げる。
6　おおむね 5歳	・自分で考えながら、自分の気持ちを分かりやすく表現したり、相手の気持ちを聞いたりして伝え合うことを楽しむ。	・様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で言葉のやりとりを楽しむ。	・生活に必要な簡単な文字や記号に関心をもち、絵本、物語、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを広げ、保育士等や友だちと楽しみ合う。
7　おおむね 6歳	・自ら言葉を使い、文字を書いたり読んだりする楽しさを味わう。	・自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う喜びを味わう。	・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育士や友だちと心を通わせる。

表　現

ね　ら　い	（心情） 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。	（意欲） 感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。	（態度） 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。
1　おおむね 1歳から 1歳6か月未満	・身体全体を使って多様なものに出合い、形や色、音、感触等を味わう。	・保育士等がタイミング良く応答し、共感することで心地よさを味わい、自分の思いを表現しようとする。	・生活の中で自ら触れたものを手掛かりに、経験を重ねていく。
2　おおむね 1歳6か月から 2歳未満	・生活の中で、身体の感覚を伴う様々な体験を積み重ねる。	・見たり触れたりしたものの動きを真似しようとし、楽しい気持ちを表現する。	・感じたことを自分なりに表現し、イメージを膨らませる。
3　おおむね 2 歳	・友だちや保育士等と一緒に身の回りの様々なものを見たり、触れたり、聞いたりして興味や関心を広げる。	・興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で保育士とともに好きなように表現する。	・友だちや保育士等と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして表現遊びをする。
ね　ら　い	（心情） いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。	（意欲） 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	（態度） 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
4　おおむね 3 歳	・様々なものを見たり触れたりして音や色、手触りなど、面白さや美しさに気づく。	・自己表現が豊かになり、自分が感じたことや思ったことを描いたり歌ったり体を動かして表現しようとする。	・身の回りの大人の行動や日常生活において経験したことをイメージし、豊かに表現することを楽しむ。
5　おおむね 4 歳	・身近な自然や事物に関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさに気づき、驚いたり感動したりする。	・感じたことや思ったこと、現実に体験したことなどを重ね合わせイメージし、様々な方法で自由に表現する。	・保育士の共感や友だちの認め合いの中で目的を持って作る、描く、体を動かすなど、様々な方法で自由に表現する。
6　おおむね 5 歳	・様々な物の音、形、色、手触り、動きなどへの関心が高まり、面白さ、美しさなどに対する感性を持つ。	・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に工夫して表現して楽しむ。	・内面の成長に伴い、絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージを豊かにする。
7　おおむね 6 歳	・様々な経験を通して、いろいろなものへの関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感性を豊かにする。	・感動したことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自分なりに工夫して自由に表現して楽しむ。	・生活や遊びの中でイメージを豊かに広げ、様々な表現を楽しみ、友だちと共に充実感や達成感を味わう。

５　保育の実施に関して留意すべき事項

（１） 保育全般に関わる配慮事項

・子どもの発達は、心身共に個人差が大きいことに配慮し、一人一人の発達過程を踏まえた上で保育する。また、その子どもの興味や関心にそった環境を構成し常に子どもの気持ちに寄り添い保育することが求められる。
・子どもの心と体の健康は大人等との信頼関係を拠りどころとして育っていく。生理的、身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもたらされることに留意して丁寧に関わることが大切である。
・子どもが遊びを通して積極的に環境に関わる中で試行錯誤を重ねたり達成感を味わうことが出来る様に行動を見守り、適切に援助することが必要である。
・入所時の保育に当たっては、できるだけ個別的に対応し、子どもが安定感を得て、次第に園生活になじんでいくようにするとともに、在園児についても不安や動揺を与えずに子ども同士が安定した関係を築けるように援助する。
・子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにする。
・子どもの性差や個人差を踏まえて環境を整え、人権に配慮した保育を心がけ、保育士等自らが自己の価値観や言動を省察していくことが必要である。

（２） 小学校との連携

・子どもは、乳幼児期にふさわしい遊びや生活における具体的な体験を通して発達していく。
小学校での生活や学習につながる保育は、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎が培われるよう毎日の生活や遊びを充実させることが大切である。
・保育所と小学校では子どもの生活や教育の方法が異なるため、子どもの発達と学びの連続性を確保するために「乳幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を手がかりに、保育士等と小学校の教師が子どもの成長を共有することが大切である。保育所と小学校の円滑な接続のため、幼児期から児童期への発達の流れを理解し、意見交換会や研修会、参観等の連携を図るようにする。
・就学先となる小学校へ、子どもの育ちを支える資料として「保育所児童保育要録」を送付する。「保育所児童保育要録」は、一人一人の子どもの良さや全体像が伝わるように工夫するとともに、子どもの最善の利益を考慮し、保育所から小学校へ子どもの可能性を受け渡していくものであると認識する。

（３） 家庭及び地域社会との連携

・子どもの発達の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮することが大切である。
・家庭や地域社会と日常的に十分な連携をとり、地域の自然に接したり、幅広い世代の人と交流したり、社会の様々な文化や伝統に触れたりする、直接的な体験ができるよう、指導計画に基づいて実施する必要がある。

６　保育所児童保育要録について

すべての保育所入所児童について、保育所から就学先となる小学校へ、子どもの育ちを支える資料「保育所児童保育要録」として送付することになっている。

保育所での子どもの育ちをそれ以降の生活や学びへとつなげていくことは、保育所の重要な役割である。

【小学校との連携】

ア　保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

イ　保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第１章の４の（２）に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

ウ　子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。　（ 保育所保育指針　第２章より）

（１）「保育所児童保育要録」の作成と送付について

・保育所生活を通して子どもが育ってきた過程を振り返り、その姿や発達の状況をとらえ的確に記録することが大切である。こうした記録をもとに、就学先に送付する資料として簡潔にまとめる。
・小学校において子どもの育ちを支え、子どもの理解を助けるものとなるようにまとめる。
・保育における養護及び教育に関わる５領域の視点を踏まえて記載するなど、子どもの状況などに応じて柔軟に作成する。
・一人一人の子どもの良さや全体像が伝わるよう工夫して記載する。
・子どもの最善の利益を考慮し、保育所から小学校へ子どもの可能性を受け渡していくものであることを認識することが大切である。
・保護者との信頼関係を基盤として、保護者の思いを踏まえつつ記載する。
・保育要録の送付については、入所時や懇談会などを通して、保護者に周知する。
・個人情報保護や情報開示に留意する。
・就学先の小学校へ送付する時期については、対象児童の入学前年度２月末頃までに行うことが望ましい。
・作成した保育所児童保育要録については、その写しを、児童の就学先となる小学校の校長に送付する。

（２）保育所児童保育要録に記載する事項

○　入所に関する記録

１　児童の氏名、性別、生年月日及び現住所

２　保護者の氏名及び現住所

３　児童の保育期間（入所及び卒所年月日）

４　児童の就学先（小学校名）

５　保育所名及び所在地

６　施設長及び担当保育士氏名

○　保育に関する記録

保育に関する記録は、保育所において作成した様々な記録の内容を踏まえて、最終年度（小学校就学の始期に達する直前の年度）の１年間における保育の過程と子どもの育ちを要約し、就学に際して保育所と小学校が子どもに関する情報を共有し、子どもの育ちを支えるための資料としての性格を持つものとすること。

また、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、記載すること。

１　保育の過程と子どもの育ちに関する事項

最終年度における保育の過程及び子どもの育ちについて、次の視点から記入すること。

（１）最終年度の重点

年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

（２）個人の重点

１年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

（３）保育の展開と子どもの育ち

次の事項について記入すること。

①　最終年度の１年間の保育における指導の過程及び子どもの発達の姿について、以下の事項を踏まえ記入すること。

・保育所保育指針第２章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

・保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えた子どもの発達の姿。

②　就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③　記入に当たっては、特に小学校における子どもの指導に生かされるよう、保育所保育指針第１章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。その際、別紙資料１に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照するなどして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の趣旨や内容を十分に理解するとともに、これらが到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に子どもの育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的かつ総合的に捉えて記入すること。

（４）特に配慮すべき事項

子どもの健康の状況等、就学後の指導における配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

２　最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関して、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

「保育所保育指針の適用に際しての留意事項について」
（平成 30 年 3 月 30 日子保発 0330 第 2 号別添１より）

保育所児童保育要録（入所に関する記録）

児　童	ふりがな 氏　名		性　別	
		年　　月　　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			
入　所	年　　月　　日	卒　所	年　　月　　日	
就学先				
保育所名 及び所在地				
施　設　長 氏　　名				
担当保育士 氏　　名				

保育所児童保育要録（保育に関する記録）

本資料は、就学に際して保育所と小学校（義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。）が子どもに関する情報を共有し、子どもの育ちを支えるための資料である。

ふりがな 氏名		保育の過程と子どもの育ちに関する事項	最終年度に至るまでの育ちに関する事項
生年月日	年　　月　　日	（最終年度の重点）	A4サイズ　2枚
性別		（個人の重点）	
ね　ら　い （発達を捉える視点）		（保育の展開と子どもの育ち）	
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	（特に配慮すべき事項）	

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。
健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

＊最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

＊個人の重点：１年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

＊保育の展開と子どもの育ち：最終年度の１年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第２章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して

子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

＊特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

（別紙）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

保育所保育指針第１章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第２章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

保育所児童保育要録（保育に関する記録）の記入に当たっては、特に小学校における子どもの指導に生かされるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に子どもの育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。